

# 歴史研修（その9）

2018年5月16日(水)～17日(木)



道内唯一の日本式城郭  
松前城の前で



## 蝦夷の城めぐり

今回は北海道・函館と松前を探訪。  
北海道の重要拠点として日本の近代史上で大きな存在感を示す  
五稜郭と松前城を巡りました。  
江戸時代から明治初期の北海道の歴史について  
学びを深める研修となりました。

### 解説

静岡大学名誉教授

小和田 哲男さん



### 五稜郭



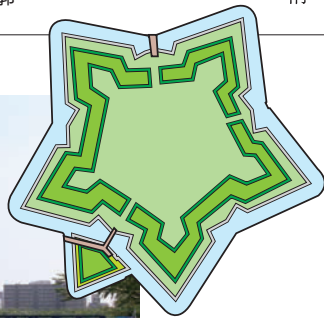
星形をした「和魂洋才」の象徴 五稜郭

一行が最初に訪れたのは、北海道のランドマークの一つにも挙げられる五稜郭。函館がまだ「箱館」と表記されていた1857（安政4）年から、開港場防備の拠点として徳川幕府により建設されました。ヨーロッパの城塞都市を参考に、日本の築城技術も応用しながら蘭学者の武田斐三郎が設計を担当。外構工事が一部縮小されるなど変更を経て、日本における初期の洋式城郭として、7年の歳月をかけて完成しました。

五稜郭は、その名の通り5つの稜堡からなる星型の「堡壘」と、それを守る「半月堡」、水堀で構

成されています。堡壘と半月堡の外周には堀を掘った土で造られた土塁と石垣が築かれ、石垣の最上部には敵の侵入を防ぐ「忍び返し」を設置。門をくぐった先には見隠堀を築いて内部を見えなくするなど、防衛の工夫が随所に盛り込まれています。

列強諸国の脅威に備えて造られたこの堅固な要塞がとりわけ注目を集めたのは、1868（明治元）年。かの戊辰戦争の最終決戦である、箱館戦争の舞台となったときでした。折しも明治元年から150年に当たる今、改めて明治維新に思いを馳せる機会となりました。



五稜郭の全体図



お堀から五稜郭タワーを望む

### ※箱館戦争

1868（明治元）年に起きた、戊辰戦争最後の戦い。榎本武揚率いる旧幕府軍が、新政府が置いていた箱館府を占領したことに端を発し、蝦夷地（北海道）を巡って争うことになりました。

当初は旧幕府軍が戦況を有利に運んでいたものの、1869（明治2）年に新政府軍が戦艦の動員と兵力の増強を行ったことによりパワーバランスが逆転。旧幕府軍に身を寄せていた新撰組副長の土方歳三が戦死するなど、激しく厳しい戦いを強いられる中、黒田清隆による降伏勧告を旧幕府軍が受け入れたことで、およそ6カ月間に及ぶ戦争は終結しました。

なお、開戦時点で箱館をはじめとした蝦夷地の主要部を制圧していた旧幕府軍は、「蝦夷共和国」として独立する構想を抱いていたと言われています。この戦争の勝敗の行方が変わっていたら、その後の歴史も大きく変わっていたでしょう。



城壁の説明に熱心に耳を傾ける参加者



八重桜とたんぽぽが美しい五稜郭

# 松前城

続いて一行は松前城を訪問。松前城は、松前藩主の居城で、江戸時代初期にロシアの南下政策を阻止する目的で建築された「福山館」が起源となっています。そのため、国の指定史跡には正式名称である「福山城」として登録されています。海側からの艦砲射撃に備えて砲台を整備するとともに、城壁の中に鉄板を仕込むなど、珍しい構造も見られます。

北海道で唯一にして日本で最後に造られた和式城郭である松前城ですが、和式城郭としては

最北に位置するだけに、築城に際して忘れてはならないのが寒冷対策。凍結による破損やひび割れを防ぐため、天守や櫓門の屋根には粘土瓦の代わりに銅板を葺いたほか、春先に奥の土が溶け出してしまわないよう、石垣では隙間を埋め尽くすように石が積み

られました。この「亀甲積み」とも呼ばれる積み方で隙間なく石を積んだ石垣には、戊辰戦争当時、攻め手の土方歳三の攻撃を受けた際についた弾痕が今も残っています。

松前城は、1606(慶長11)年の福山館の完工以来、江戸の泰平と幕末の動乱、そしてその後の世

の移り変わりをみつめてきました。国の重要文化財に指定されている本丸御門と北海道の有形文化財に指定されている本丸表御殿玄関は、往時の面影をそのまま今に伝えています。

一行はその後、千代の山、千代の富士の偉業を伝える横綱記念館と、現在は総合複合施設として利用されている函館市の金森赤レンガ倉庫を見学して、帰途に着きました。今回は、全国屈指の桜の名所であり「2カ月にわたって花見ができる」といわれる松前

城で、桜も楽しみながらの歴史研修。北の大地で春の訪れを五感で味わいながら、学びに満ちた二日間の研修を終えました。

## ※亀甲積み

石材を加工して積み上げる「切り込み接ぎ」の一種。ノミで丹念に整形して六角形の石材を作り上げて隙間なく積んださまが亀の甲羅の模様のように見えるため、こう呼ばれます。特徴は、力が均等に分散するため、崩れにくいこと。中でも比較的柔らかく加工しやすい緑色凝灰岩が使用された松前城は、緑色の石垣に覆われた珍しい城として有名です。



江戸の街並を再現した松前藩屋敷



廻船問屋



商家の様子

## 松前藩屋敷

幕末には世帯数8,000戸・人口3万人を数え、仙台以北最大の都市として栄華を誇った松前藩の当時の様子を再現したのが、松前藩屋敷です。奉行所や武家屋敷、商家からなる14棟の建物は、北前船による本州との交易で栄えた当時の文化・風土をありありと伝えています。



遅咲きの桜が満開



解説を聞きながら松前城までの坂道を歩く参加者



お堀越しの松前城

## 寺町

松前城の北側には、道内唯一の寺町が今なお残されています。エリア内には国指定の重要文化財である山門を有する龍雲院をはじめ、阿吽寺、法幢寺、法源寺、光善寺の5つの寺が現存。歩いて回れる距離に集まっているので、それぞれのお寺が伝える長い歴史を肌で感じながら歩くことができます。



歴史を感じさせる阿吽寺



龍雲院  
(国指定重要文化財)



法源寺  
(山門は国指定重要文化財)